

事 業 報 告 書

令和5年4月28日

北海道教育委員会 様

江別市西野幌685番地1
北海道立埋蔵文化財センター指定管理者
公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
理 事 長 長 沼
電話番号 011-386-3231



北海道公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例の施行に関する教育委員会規則第9条の規定により、次のとおり令和4年度事業報告書を提出します。

記

- 1 公の施設の名称 北海道立埋蔵文化財センター
- 2 管理に係る業務の実施状況及び当該公の施設の利用状況に関する事項
別紙1・2
- 3 使用料又は利用料金の収入の実績に関する事項
令和3年度において、当該施設では使用料並びに利用料金等の収入実績はありません。
- 4 管理に係る経費の収支状況に関する事項
別紙3
- 5 管理の目標に係る達成状況に関する事項
別紙4
- 6 その他教育委員会が必要と認める事項
別紙5

1 管理に係る業務の実施状況に関する事項

(1) 指定管理業務の基本的な運営方針に基づく指定管理業務の実施状況

ア 運営方針

(7) 調査研究事業等として、道内所在の重要遺跡確認調査、埋蔵文化財の保護、保存、活用を図り、効果的・効率的な調査方法及び最新技術に関する研究、出土文化財の保存処理、分析、同定、鑑定を行った。

また、出土文化財の収蔵・保管については、北海道出土文化財取扱要綱等により整理・保管し、いつでも活用できるよう管理した。

(4) 普及啓発事業として、埋蔵文化財の基礎的知識を養い、保護の必要性を示す展示公開を行うとともに、各種資料・情報を道民に提供することなどにより、埋蔵文化財に触れ親しむ機会を拡大し、埋蔵文化財保護思想の普及啓発と意識の高揚を図った。

また、各分野の専門家を招いての講演会開催、児童・生徒や一般住民を対象とした、埋蔵文化財の基礎的な学習や、調査現場での体験発掘・石器作り等を行い、埋蔵文化財に対する関心と理解を深め、保護思想の高揚を図った。

イ 維持管理方針

(7) 施設の衛生的環境の確保や空気調和・給排水衛生設備の点検、消防用設備等に係わる点検業務、自家用工作物の保安管理などの維持管理は、関係法令等に基づき実施し、施設利用者の安全と快適な環境の確保に努めた。

(4) 利用者が常に快適に利用できるよう、適切な施設の管理を行い、施設の利用状況を常に把握し、効率的な施設保守点検、警備等を実施し、善良なる管理者の注意をもって事故、災害、犯罪等を未然に防止するよう努めた。

(2) 組織体制、人員配置、研修等の実績

ア 組織体制、人員配置計画

北海道立埋蔵文化財センターの管理運営に直接携わる職員は、別紙「組織体制等」の組織図のとおりであり、事務分掌により職員を配置した。

実務は、役員2人、総務部5人及び調査部7人の合計14人がそれぞれの業務に関わって実施した。

「北海道立埋蔵文化財センター」の業務実施上の機構としては、理事長を所長とし、副理事長及び専務理事を副所長として管理運営の総括的な責任体制を整え、総務部は主として要求水準書で示された維持管理業務及び運営業務を、調査部は主として調査研究事業、収蔵保管事業及び普及・啓発事業を担当し、担当課に適任者を配置した。

イ 研修実績

公益財団法人北海道埋蔵文化財センターは、定款に定められた事業をより充実し実施する上からも、また、道内のセンター的な役割を果たしていくためにも、職員がより専門性や必要な技術を習得していくことが求められていることから、職員の研修には可能な限りの措置を行った。

計画	内容	実績	実施日時	場所	備考
発掘技術者専門研修	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所文化財担当者専門研修				
発掘調査事業に係る専門機関の研修等	全国公立埋蔵文化財連絡協議会研修会	4名	2022.10.21	登別市	
	全国埋蔵文化財連絡協議会研修会	1名	2023.11.1 ～2	長野市	
	埋蔵文化財担当職員講習会（文化庁・石川県教育委員会）	第1回 1名	2023.8.31 ～9.2	金沢市	
	アイヌ文化財専門職員等研修会（北海道教育委員会）	1名	2023.1.20	札幌市	
	北海道教育委員会主催懇談会	第2回北海道東部の 竪穴住居跡調査懇談会1名	2023.3.20	札幌市	
学会等	専門学会参加による知識等の吸収	第12回文化財写真技術研究会1名	2022.9.21	奈良市	
公益法人講座等	全国公益法人協会主催等	講習会（社団・財団法人税務）1名	2022.6.21	札幌市	
		講習会（公益法人経理事務）1名	2022.9.15	札幌市	
		講習会（社会保険事務）1名	2022.10.6	札幌市	
		定例講座（立入検査）1名	2022.11.28	札幌市	

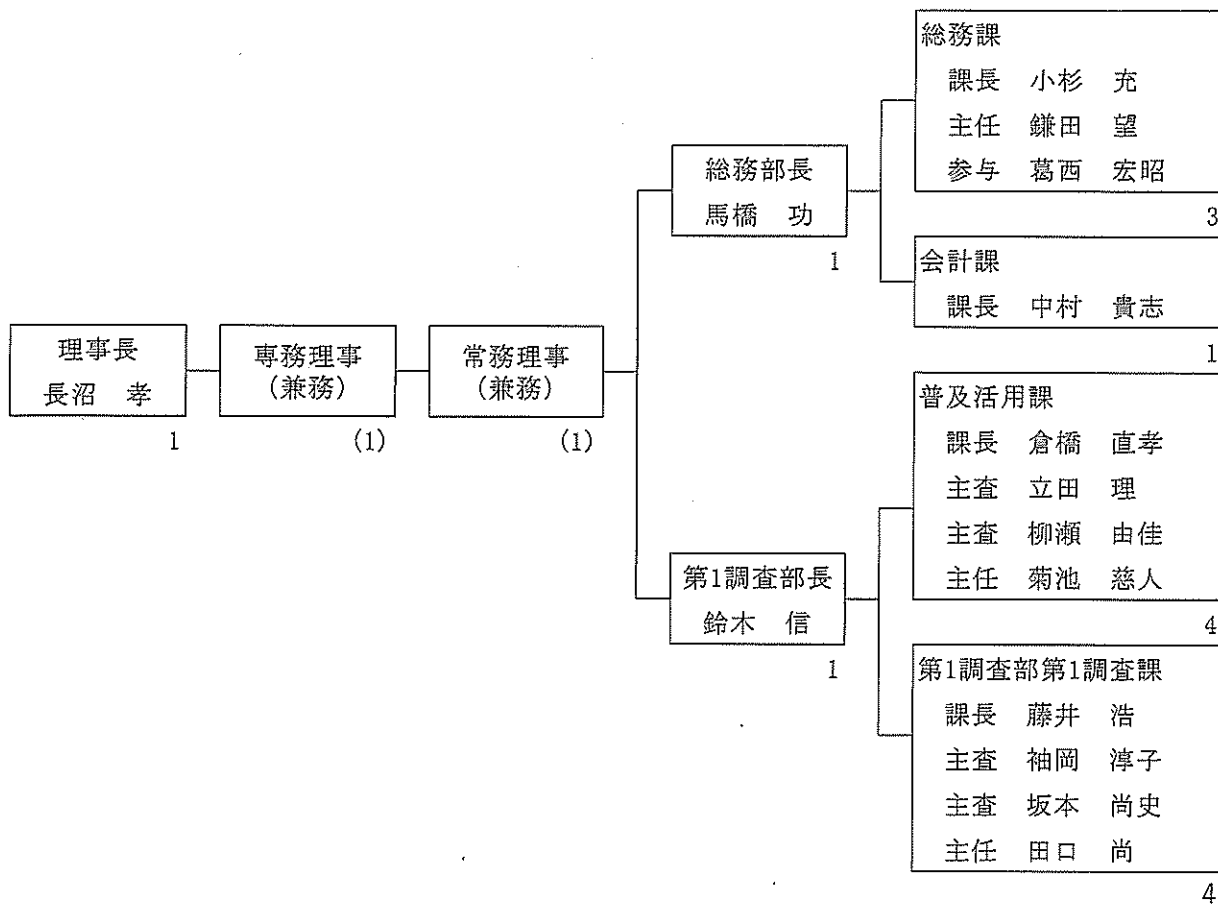
別紙

組織体制等

① 総括責任者

役職名	氏名	団体の役職名	備考
所長	長 沼 孝	理事長	

② 組織図 (令和4年4月1日現在)

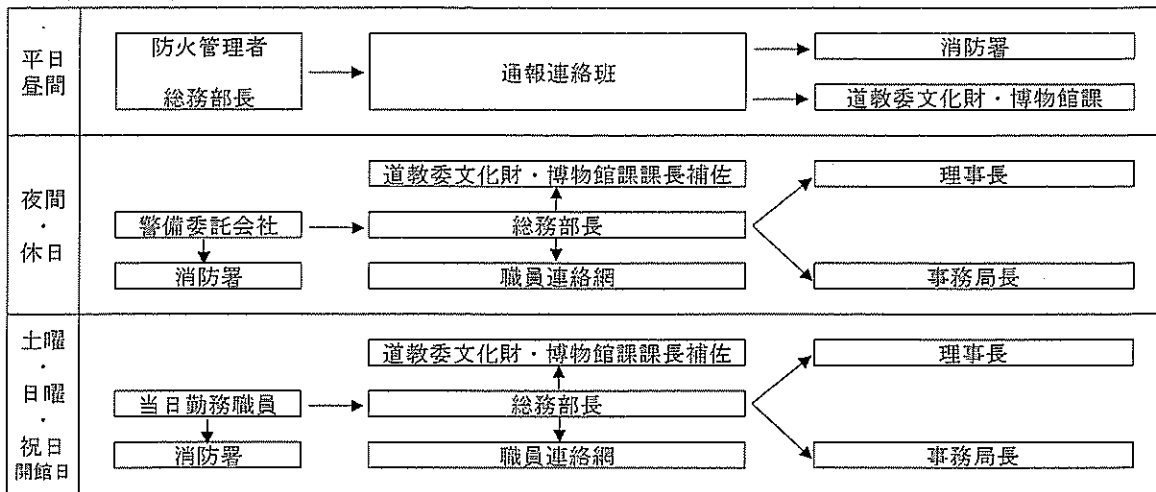


③ 事務分掌

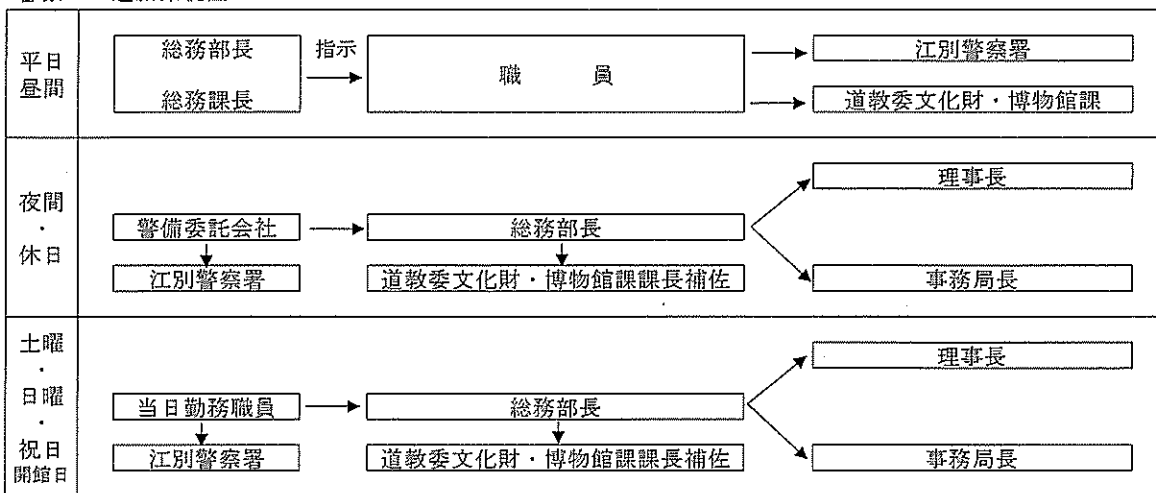
課名等	内 容
総務課	<ol style="list-style-type: none"> 1 予算に関する事 2 指定管理者に係る協定に関する事 3 業務委託契約に関する事 4 庁舎の維持管理・取締りに関する事 5 臨時職員に関する事 6 保険に関する事
会計課	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員給与及び役員報酬の支給に関する事 2 決算及び会計事務に関する事 3 会計帳簿の記録管理及び証拠書類の編集、保管に関する事 4 資金の管理に関する事
普及活用課	<ol style="list-style-type: none"> 1 公立埋文協に関する事 2 団体入館者、問い合わせの対応に関する事 3 調査研究事業に関する事 4 収蔵保管事業に関する事 5 普及啓発事業に関する事
第1調査部 第1調査課	<ol style="list-style-type: none"> 1 出土文化財の保存科学に関する事 2 自然科学的調査と分析に関する事 3 普及活用に係る写真に関する事

④ 緊急時連絡体制

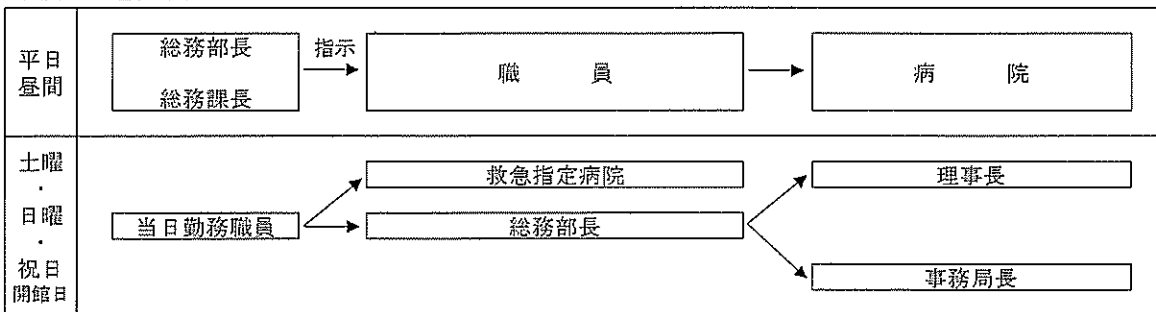
1 火災発生連絡系統図



2 警察への連絡系統図



3 病院への連絡系統図



(発見者)

- 第1発見者は、下記の第1連絡者と連絡がとれない場合は、第2連絡者又は第3連絡者に連絡（電話）する。
 - ① 総務部長 第1連絡者
 - ② 第1調査部長 第2連絡者
 - ③ 第2調査部長 第3連絡者
- 第1連絡者～第3連絡者は、連絡を受けた場合、理事長、専務理事、総務部長に連絡する。
- 総務部長は関係機関、文化財・博物館課等へ連絡する。
- 各部長から各課長へ連絡する。
- 各課長は、課員に連絡する。

(3) 事業等の実施項目、年間スケジュール等に対する実績

ア 事業及び業務の実施項目

(7) 企画展示

- ① ・ 事業名： 「(公財)北海道埋蔵文化財センター令和3年度調査成果」展
 - ・ 開催期間： 令和4年3月26日(土)～5月29日(日)
 - ・ 展示内容： (公財)北海道埋蔵文化財センターが令和3年度に実施した発掘調査と整理作業の成果を、出土した遺物を中心に写真や解説パネルなどで紹介した。

- ② ・ 事業名： 「北海道・北東北の縄文遺跡群展」
～突起のついた土器～
(北海道における縄文中期のはじまりとその世界観)
 - ・ 開催期間： 令和4年7月9日(土)～9月25日(日)
 - ・ 展示内容： 縄文海進の温暖期が終わり、徐々に寒冷化へと進む時期である縄文時代中期、日本列島全体で大きな突起のついた土器が流行し、推定人口が縄文史上最多となる。世界遺産構成遺産、特別史跡三内丸山遺跡もその大きな流れの中で、前期円筒下層式から中期上層式の文化へと変化し最盛期を迎える。円筒土器文化は北海道に直接的、間接的に影響を与える一方、石器はむしろ影響を与えたことも指摘されている。北海道の縄文時代前期～中期において、円筒土器文化の影響により変わったものとは何か、逆に北海道独自のものとは何か、考古学の問題について紹介する展示とする。北海道の代表的な遺跡を取り上げ、わかりやすく紹介することで、埋蔵文化財への理解をより深めることを目的とする。

- ③ ・ 事業名： 北海道遺跡百選15
—写真で魅せる縄文の世界—～遺物写真で紹介する北海道縄文文化の魅力～
 - ・ 開催期間： 令和4年12月3日(土)～令和5年2月26日(日)
 - ・ 展示内容： 2021年(令和3年)に「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコの世界文化遺産に登録され、昨今縄文文化が注目されている。そこで遺物写真パネルをメインとして北海道縄文文化の魅力を視覚に訴え、縄文文化への興味を持つ入口となることを目的とする。

- ④ ・ 事業名： 北の縄文 世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群展
 - ・ 開催期間： 令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金)
 - ・ 展示内容： 令和元年12月に世界遺産となった「北東北・北海道の縄文遺跡群」の内容について、主に写真を用いて紹介する。

(4) 講演会等 (道民カレッジ連携)

- ① ・ 事業名： (公財)北海道埋蔵文化財センター令和3年度調査報告会
 - ・ 開催日時： 令和4年4月16日(土) 13:30～16:00
 - ・ 内容： 令和3年度に(公財)北海道埋蔵文化財センターが調査を行った遺跡について、スライドを使用して発掘成果の報告を行った。また、会期中募集していた考古川柳について、参加者投票によるグランプリ・準グランプリの発表を行った。

- ・ 参加者： 63名
- ② ・ 事業名： 春季講演会
「縄文から弥生へ1」「弥生文化とは何か」
- ・ 開催日時： 令和4年5月21日（土） 13：30～15：30
 - ・ 講師： 国立歴史民俗博物館教授 藤尾 慎一郎 氏
 - ・ 内容： かつて、稲作、鉄製品、弥生土器の使用がセットとして考えられていたが、近年の研究では、鉄製農具は稲作、弥生土器の使用から600年くらい遅れて、弥生時代当初は、石器の利用が続いていた。縄文時代から弥生時代への移行、特に弥生文化の特色を調査事例に基づく近年の研究成果から説明した。
- ・ 参加者： 60名
- ③ ・ 事業名： 秋季講演会
「縄文から弥生へ3」「近畿における縄文文化から弥生文化」
- ・ 開催日時： 令和4年10月22日（土） 13：30～15：30
 - ・ 講師： 大阪府立弥生文化博物館長 禰亘田 佳男 氏
 - ・ 内容： 近年の近畿地方の調査により、縄文文化から弥生文化への変化がより明らかになってきた。その成果をもとに講師が所属する館では、令和3年度、「近畿最初の弥生人」の企画展が行われた。近年の成果を北海道ではじめて講師により解説していただいた。
- ・ 参加者： 64名
- (ウ) 考古学講座（道民カレッジ連携）
- ① ・ 事業名： 「キーワードで読み解く北海道北東北の縄文遺跡群1」
「日本列島の貝塚から見た世界文化遺産の貝塚」
- ・ 開催日時： 令和4年7月23日（土） 13：30～15：30
 - ・ 講師： 明治大学研究・知財戦略機構研究推進員 樋泉 岳二 氏
 - ・ 内容： 道立センター5期目の要求水準書に、年1度以上「北海道・北東北の縄文遺跡群」の講座・講演会を行うよう指示があり、それに合わせて、本年度から「キーワードで読み解く北海道北東北の縄文遺跡群」のシリーズを開始した。貝塚・集落・墓の観点から1年1回の講座を通して、解説していくこととし、1回目は、日本列島の貝塚調査からの知見を講師に解説をいただいた。
- ・ 参加者： 58名
- ② ・ 事業名： 「縄文から弥生へ2」
「九州における縄文文化から弥生文化」
- ・ 開催日時： 令和4年9月3日（土） 13：30～15：30
 - ・ 講師： 九州歴史資料館参事補佐 宮地 聡一郎 氏
 - ・ 内容： 九州ではいち早く水稻栽培を受け入れ、新しい文化を指導させていた。九州における縄文文化から弥生文化への変化の中で、文化の構成要素として何がどのような変化をしたのか。九州地方の土器や集落遺跡について造詣の深い講師から近年の調査成果について報告があった。
- ・ 参加者： 62名
- ③ ・ 事業名： 「縄文人に挑戦」
- ・ 開催日時： 令和4年10月29日（土） 13：30～15：30
 - ・ 講師： （公財）北海道埋蔵文化財センター普及活用課 柳瀬 由佳

- ・ 内 容： 縄文人が利用した素材と道具で、遺物を再現。どれだけ縄文人に迫ることができるのか。今年度は、昨年度に引き続き、縄文時代の高度な漆工技術で製作された結歯式漆塗櫛の製作をテーマとし、なかでも編み上げ法による透かし模様を製作モデルとした。講座では、①櫛歯結束、②透かし模様の編み上げ、③頭部の塑形、④パイプ状ベンガラによる彩色の4段階の製作工程を復元して体験製作を行い、結歯式櫛の構造、編み上げ法による透かし模様の構造と技法、塑形技術、彩色技法などについて体験を等して学習した。
 - ・ 参加者： 18名
- ④ ・ 事業名： 「縄文から弥生へ4」
「縄文・弥生の社会変動と弥生布の拡散」
- ・ 開催日時： 令和5年2月4日（土）13：30～15：30
 - ・ 講師： 奈良大学教授 小林 青樹 氏
 - ・ 内 容： 糸紡ぎに使用する紡錘車など紡績に関わる詳細調査から西日本に始まる弥生布が、想像以上に早く続縄文文化にまで到達していたことがわかってきた。その背景には、「衣」の部分でも縄文文化から弥生文化への広域な社会変動があった。これまで語られることがなかった「衣」の変革について、研究を進める講師から近年の成果を伺った。
 - ・ 参加者： 59名
- ⑤ ・ 事業名： 「比べてわかる道内の堅穴群1」
「堅穴集落とアイヌ民族の歴史」
- ・ 開催日時： 令和5年3月18日（土）13：30～15：30
 - ・ 講師： 北海道教育庁生涯学習推進局
文化財・博物館課文化財調査グループ主査 西脇 対名夫 氏
 - ・ 内 容： 道立センター5期目の要求水準書に、年1度以上「北海道内の堅穴群」の講座・講演会を行うよう指示があり、それに合わせて、本年度から「比べて分かる道内の堅穴群」のシリーズを開始した。1回目は、「堅穴集落とアイヌ民族の歴史について、造形の深い講師から話をいただいた。
 - ・ 参加者： 63名

(エ) こども考古学教室

- ① ・ 事業名： 「まいぶん遺跡探検隊（第1次）」
「土器のもようのヒミツをさぐれ！」
- ・ 開催日時： 令和4年7月30日（土）13：30～15：30
 - ・ 講師： (公財) 北海道埋蔵文化財センター普及活用課 柳瀬 由佳
 - ・ 内 容： 第1部：縄文・縄文原体についての知識学習、第2部：縄文原体の製作体験、第3部：原体標本パネル「イチオシ！縄文土器の文様図鑑」製作、の3部構成で実施した。ワークシートと製作マニュアルとして探検手帳を配布した。
- 知識学習では質問や実物観察を交えながら、①縄文の観察方法・施文方法、②縄文原体の構造と素材、について学習した。②では、用意しておいた2段摺りの原体を実際にほどいてみる過程を通して、原体の構造を体験的に理解できるようにした。
- 原体製作体験は親子2人の共同作業とし、単節と結束第1種有情の2つの原体の製作方法を体験学習した。素材には、キムタオル（日本製紙クレシア株式会社製、38cm×58cm、4枚重ね）を使用し、短辺方向に1cm幅に裁断して、単節原体用には4枚重ねのまま使用した。これにより、材料と原体の太さの関係を理解できるようにした。

講座のまとめとして、製作した2種類の原体による縄文と、縄文以外の文様1種類について、原体・文様・開設からなるA4サイズの標本パネル「イチオシ！文様図鑑」を製作した。縄文以外の背紋原体としてはサルボウガイ、ニシン腹椎骨、網目状撚糸文原体、複節原体を用意した。

縄文原体製作は難易度の高い作業であったが、親子での共同作業とすることで集中して取り組んでもらうことができた。また、施文方法を体験学習することで、土器の文様への関心が高まった様子がみられた。なお、第2次の土器製作体験にも参加する場合は、第1次で製作した縄文原体を使用して施文することとした。

・ 参加者： 21名

②・事業名： 「まいぶん遺跡探検隊（第2次）」
「縄文土器のヒミツをさぐれ！」

・ 開催日時： 令和4年8月6日（土） 13:30～15:30

・ 講師： （公財）北海道埋蔵文化財センター普及活用課 柳瀬 由佳

・ 内容： 第1部：土器についての知識学習、第2部：土器製作体験の2部構成とし、ワークシートとして「探検手帳」を配布した。

知識学習では、展示室で土器を観察しながら探検手帳のミッションをクリアする出題形式で、①土器焼成の意義、②煮炊きによる食物加工の意義、③土器形式、について学習した。

製作体験に先立って実物資料によるハンズオン学習を行い、実際の土器の質感や器面調整、文様などを観察して理解を深めた。土器製作体験ではオープン陶土を素材として高さ7～8cmほどの土器を製作し、輪積み技法、波状口縁の製作技法、縄文・突瘤文・沈線文の背紋方法などを体験学習した。講座を通して知識や観察成果と体験を結びつけることにより、土器への理解が深まった様子がみられた。なお、第1次で縄文原体製作を行った参加者は、自作の原体で施文を行い、原体・施文方法に対する理解が深化した様子がみられた。

・ 参加者： 14名

③・事業名： 「親子ガラス玉づくり教室」

・ 開催日時： 令和4年11月12日（土） 13:30～15:30

・ 講師： 遠軽町教育委員会 瀬下 直人 氏

・ 内容： 巻き付け法によるガラス玉づくりを実施した。内容は①製作方法・注意事項に関する座学、②講師実演、③ガラス玉作り体験、④製作体験の振り返り、⑤ガラス玉模様付け体験（トンボ玉）、⑥講師トンボため実演、⑦徐冷したガラス玉の改修、であった。

講座では、子供1人につきガスバーナーを1台設置し、保護者には子供のサポートをお願いした。2時間ほどの間に、1人につき5～6個程度のガラス玉と1個程度のトンボ玉を製作した。参加した子供たちは普段扱うことがないガスバーナーの使用や、難易度の高いガラス玉づくりに緊張しながら真剣に取り組んでいた。特に④の振り返りを通して、失敗や成功の原因を考えることで参加者各々が次の製作へ向けて改善点を見つけ出しており、自分で考え実践する効果的な学習が行われていた。

・ 参加者： 19名

④・事業名： 「まいぶん遺跡探検隊（第3次）」
「じょうもん勾玉に挑戦！」

・ 開催日時： 令和5年1月7日（土） 13:30～15:30

- ・ 講 師： (公財) 北海道埋蔵文化財センター普及活用課 柳瀬 由佳
- ・ 内 容： 第1部：知識学習、第2部：資料観察、第3部：勾玉製作体験の3構成とし、ワークシートとして「探検手帳」を配布した。
知識学習では質問形式で、勾玉の定義、歴史、素材について学習し、特にヒスイ製勾玉の流通の意義について取り上げた。資料観察は展示室で行い、展示している勾玉から各自1展を選んで観察し、スケッチと特徴を記載した。
体験製作に先立ち、収蔵資料である美々4遺跡・キウス4遺跡出土の勾玉によるハンズオン学習を行い、手触り、重さ、表面調整などについて体感してもらった。勾玉製作体験では、教材用の滑石を素材として、石錐(復元製作品)、砥石(砂岩自然石)、トクサを製作用具の一部として使用し、勾玉の製作工程、石器・トクサの使用方法等について体験学習した。石器の使用を実体験することで、石器利用や石製品製作技術について関心が高まった様子がみられた。
- ・ 参加者： 20名

- ⑤ ・ 事業名： 「まいぶん遺跡探検隊(第4次)」
「火おこしに挑戦！」
- ・ 開催日時： 令和5年1月14日(土) 13:30~15:30
 - ・ 講 師： (公財) 北海道埋蔵文化財センター普及活用課 柳瀬 由佳
 - ・ 内 容： 第1部：知識学習、第2部：火おこし体験の2部構成とし、ワークシートとマニュアルとして「探検手帳」を配布した。謎解き形式で、①人類と火の歴史、②火が人類にもたらした恩恵、③火おこしの方法について学習した。一問一答のほか、人間が火を使った証拠にはどんなものが考えられるか、火が人にもたらした恩恵とは何かなど、自分の考えで意見交換するテーマも設けた。知識を得た後に、収蔵資料である千歳市ユカンボシC15遺跡出土の火おこし具(アイヌ文化期)について、各部の形状や焼け焦げの状態について観察を行った。
火おこし体験では、第1部で学習した回転摩擦式の①きりもみ式、②弓ぎり式、③ひもぎり式、④まいぎり式と、⑤火花式の5つの方法により、親子協力して、種火から火口に点火するまでを目標に火おこしに挑戦した。参加者は試行錯誤しつつ、役割分担や効率の良い火おこし具の操作方法を考えながら挑戦し、多くの家族が火おこしに成功した。
 - ・ 参加者： 15名

イ 年間スケジュール
以下のとおり

区分	項目	目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
調査研究 事業	重要遺跡確認調査							現地調査			興新野原六群 整理作業				
	埋蔵文化財の調査研究														
	分析・鑑定・保存処理等														
	市町村支援 研修会等の開催						出前研修会			研修会					
収蔵・保管 事業	受入、分類・整理、保管等														
展示公開	常設展示														
	企画展示					北の縄文 ～世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群～展	北海道・北東北の縄文遺跡群展								
							調査成果展								
普及啓発 事業	特別利用等														
	年報等の作成・配布等														
	考古学講座					エーワードで読み解く縄文 道・北東北の縄文遺跡展1		縄文から伝承へ2	縄文人に伝承				縄文から伝承へ4	北へつなぐ縄文の 歴史12	
		こども考古学教室					縄文の縄文遺跡展1・2				親子がらすつつい				
	講座等の開催	出前講座													
		講演会													
		教育連携講座													

(4) 各業務の実施計画に対する実績

ア 利用提供業務に関する実績（開館日・休館日・開始時間等及び具体的な利用提供の実績）

(ア) 開館日・休館日

設置条例第7条ただし書きの祝日開館日及び臨時休館日は次のとおりとした。

区 分	月 日	理 由
祝日開館日	4月29日（金）昭和の日	道民サービス向上のための開館
	5月 3日（火）憲法記念日	
	5月 4日（水）みどりの日	
	5月 5日（木）こどもの日	
	7月18日（月）海の日	
	8月11日（木）山の日	
	9月19日（月）敬老の日	
	9月23日（金）秋分の日	
	10月10日（月）スポーツの日	
	11月 3日（木）文化の日	
臨時休館日	5月 6日（金）	展示替等による休館
	5月10日（火）	
	7月19日（火）	
	9月20日（火）	
	9月21日（水）	
	10月11日（火）	
	1月10日（火）	
	3月23日（水）	
	3月24日（木）	
3月25日（金）		

(イ) 開館時間

開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとした。

(ロ) 利用提供業務の実施実績

a 障害者・高齢者等の取り組みについて

現在、道立埋蔵文化財センターの駐車場から常設展示室までのアプローチには障害者、高齢者等に対応する施設・設備として、車椅子用専用駐車場（2台分）、正面玄関自動ドア、触知案内サイン（音声サイン付）、誘導用点字ブロック、オストメイト対応トイレ（汚物流し対応トイレ）、エレベーター、非常時誘導音付き点滅型誘導灯、車イスが設置されている。これらを有効に活用し、障害者、高齢者等が利用しやすい施設管理を行った。

b 職員配置について

常設展示室、ホールに職員を配置し利用者への案内や、貴重な埋蔵文化財の監視業務に従事する他、介助を必要とする障害者や高齢者等の補助等を行った。

c 施設紹介について

道立埋蔵文化財センターは、子どもから高齢者まで誰でもが利用できる施設である。そのため、ホームページを活用し、車椅子用専用駐車場、正面玄関自動ドア触知案内サイン、誘導用点字ブロック、オストメイト対応トイレ、エレベーター非常時誘導音付き点滅型誘導灯、車イスが設置されていることを紹介した。

また、外国人向けのパンフレットを作成し各種事業の情報提供を行った。

d 開館日について

休日の利用が多いことから、年間10日の祝・休日を開館日として道民サービス向上を図った。祝・休日開館日数相当の平日を臨時休館日とした。

e 研修室、図書コーナー、体験コーナー利用について

体験コーナー等の利用について広報ポスター・チラシを作成し、近隣の学校、博物館・美術館等、公共施設、観光施設、商業施設に設置して周知し、有効利用を図った。

イ 利用促進業務に関する実績（利用促進のための事業及び利用者数の実績）

(7) 調査研究事業

- a 埋蔵文化財の調査研究にあつては、独立行政法人奈良文化財研究所等への研修参加や全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会に加入し情報収集に努めるなどし調査研究を進めた。
- b 分析・鑑定・保存処理等にあつては、専門的知識を有する調査員により遺物の特性に応じた処理等を行った。また、市町村の指導依頼に対し適切に対応した。

(イ) 収蔵・保管事業

資料の整理、保管等にあつては、北海道出土文化財取扱要綱等により台帳作成し、管理した。

(ウ) 普及・啓発事業

- a 所蔵資料による通年の常設展示及び4回の企画展を開催し、年間6,200人の利用者見込みに対し、実績は7,447人であった。政府による緊急事態宣言、北海道知事による不要不急の往来・外出自粛要請、イベント開催時の定員減数措置など、年間を通し新型コロナウイルス感染症の影響を受けた結果となった。
- b 資料の特別利用等にあつては、設置条例及び利用規則により処理し利用者の利便を図った。
- c 年報を発行したほか、施設の概要案内、年間行事予定表、講演会等の各事業等のリーフレット・パンフレット・ポスター・チラシ類を作製した。。
- d 一般道民を対象とした講演会、報告会、考古学教室およびこども考古学教室（以上道民カレッジ連携）、さらに市町村での出前講座を実施した。
- e 市町村埋蔵文化財担当職員を対象に研修会を開催した。

(エ) 地域との連携等

- a 小中学校、高等学校、特別支援学校の歴史授業、総合学習、修学旅行、体験学習および親子レクリエーション事業などに対し、積極的に施設を開放するとともに、勾玉づくりなど体験型講座を実施した。

また、近隣の学校にあつては職員の派遣を行い授業に参画するなどして、埋蔵文化財保護思想の普及啓発を図りながら、施設のPRに努めた。

- b 埋蔵文化財に関連する講座、授業に対して施設を開放し、展示内容や具体的作業内容の解説、体験を通じ、埋蔵文化財保護思想の普及啓発を図った。
- c 近隣大学に対しては、教材としての埋蔵文化財資料の活用をPRし、授業関連プログラムの開発などに協力した。

また、博物館実習生を受け入れ、埋蔵文化財の保護・普及にかかる業務を行い、保護思想の普及に努めた。

- d 道立図書館とは図書資料の情報交換を活発に行い、利用者の便宜を図った。
- e 展示事業については、保管資料の貸し出しなどを相互に行い、北海道の地域特性を活かす内容とし、その充実を図った。
- f 公益財団法人北海道埋蔵文化財センターでは、遺跡見学会や体験発掘などの見学場所の提供や解説など、発掘調査成果の情報発信に努め、埋蔵文化財に対する理解を深めた。
- g 講演会、考古学教室等を連携講座として、道民カレッジ聴講生に学習機会を提供した。

ウ 維持管理業務に関する実績（施設、設備及び備品等の修繕、補修等の実績）

- (7) 施設の劣化、破損、変形等について日常的に点検し、迅速に修理・修繕等を行い、機能上、安全上、美観上良好な状態に保った。
- (4) 設備等の法定点検においては、法令等の定めによる必要な点検を実施した。
- (9) 管理・供与物品を善良なる管理者の注意を持って管理し、新たに取得した物品については、北海道教育委員会へ報告した。

エ 保守点検業務に関する実績（定期及び随時の点検・整備等の実績）

- (7) 北海道立埋蔵文化財センターは道民の貴重な財産であり、指定管理者として北海道立埋蔵文化財センター利用規則の定めを遵守し、善良な管理者として施設の内外について利用者が常に最良の状態で見られるようそれぞれの業務に精通した事業者へ維持管理業務を委託した。
- (4) 施設の衛生的環境の確保や空気調和・給排水衛生設備の点検、消防用設備等に係わる点検業務、自家用工作物の保安管理などの維持管理は、関係法令等に基づき実施し、職員及び施設利用者の安全と快適な環境の確保に努めるよう、次の施設等の保守・点検を行った。
 - a 建築物の内外壁、柱、建具、床、階段等の各部位及び各室
 - b 電気、空調・給排水設備機器、自動扉、地下タンク、昇降機、視聴覚放送設備及び防災設備
 - c 屋内外の物品、工作物、駐車場等
 - d 芝生及び樹木等

オ 清掃・警備業務に関する実績（日常及び定期的実施する大規模な清掃、警備等の実績）

- (7) 清掃
施設利用者が安全かつ快適に利用できるようゴミの収集・搬出を適宜行い、利用者が頻繁に使用する展示室、閲覧コーナー、トイレなどは日常的に清掃を行った。
また、床の洗浄・ワックス加工、ガラス清掃等の大規模な清掃及び特別収蔵庫等の出入りの少ない箇所については、月1回若しくは年1回又は2回の定期清掃とするなど、効率よく組み合わせた作業を行い、施設内の美観と衛生を保った。
- (4) 警備
施設の利用状況を常に把握し、事故・災害・犯罪等を未然に防止し、利用者の安全を確保するとともに財産の保全を図るための警備を次のとおり行った。
 - a 閉館時間から開館時間までの警備とし、警備の方法は、常駐及び機械警備の併用警備を行った。
 - b 施設内外の巡視警備を毎日、定期に行った。
 - c 緊急事態に際しては、直ちに内容を把握し、関係機関へ通報し、適切な応急処置を行うとともに通報後は教育委員会へ報告する体制をとった。

(5) 業務仕様に係る実績

項目	計画	実績	備考
(1) 維持管理業務			
ア 施設保守			
(ア) 法定点検			
① 空調機・給排水衛生設備運転保守	毎日運転保守	毎日保守点検(1名常駐) ○給水設備点検:毎週金曜日実施	記録簿管理
② 自動制御保守	総合点検年1回 巡回点検年3回 機器点検年1回 (制御系統ごとに4回に分割して実施)	○総合点検:8月実施 —経年劣化による不具合か所多数あり ○巡回点検:5・11・2月実施 —経年劣化による不具合か所多数あり ○機器点検:5・11・2月実施 —経年劣化による不具合か所多数あり	記録簿管理
③ 空調機保守点検	通常点検年1回、集中点検年2回	○通常点検:10月実施 ○集中点検:5・7月実施 (老朽化のため更新推奨)	記録簿管理
④ 自家用電気工作物保安管理	月次1回、年次1回	○月次点検:毎月実施-異常なし ○年次点検:10月実施 (年数超過のため更新推奨)	記録簿管理
⑤ 昇降機保守点検	月1回以上	○毎月実施-異常なし (「既存不適格項目」ありの指摘)	記録簿管理
⑥ 消防用設備等点検	機器点検年6ヶ月1回 総合点検年1回	○機器点検及び総合点検:9月実施 ○機器点検:3月実施-誘導灯予備電池取替必要(4月に実施済)	記録簿管理
⑦ 環境衛生管理	・水質検査、有害駆除、煤煙測定、排水・汚水槽清掃年2回、水質精密検査、貯水槽清掃貯湯槽清掃、簡易専用水道検査年1回、空気環境測定2ヶ月1回	○ねずみ、昆虫防除年2回:下記の「衛生管理、有害駆除」のとおり ○貯水槽、貯湯槽、簡易専用水道検査、排水設備清掃、汚水槽清掃、煤煙測定:下記「衛生管理-貯水槽清掃、汚水槽清掃」のとおり	記録簿管理
⑧ 視聴覚放送設備保守点検	年1回	○10月実施-異常なし	
⑨ 自動扉保守管理	3ヶ月1回以上	○6・9・12・3月実施 (部品の製造終了のため更新を強く推奨、更新時には天井取り外し工事必要)	記録簿管理
⑩ 電子顕微鏡等保守点検	年1回	○なし(R4は無料補償期間のため)	
⑪ 地下タンク点検	3年1回以上	*完成検査を受けた日から15年以上経過のため、年1回以上 ○9月実施-異常なし ○漏洩検査:毎週火曜日実施-異常なし	記録簿管理
⑫ 空調機・冷凍冷蔵機器簡易点検	四半期毎点検	○6・9・12・3月実施-異常なし	
(イ) 物品等の管理	善良なる管理者の注意を持って管理する。	○善良なる管理者の注意を持って管理している。-特記事項なし	
(ウ) 修繕等	施設の劣化、破損、変形等について日常点検、修理、修繕を行う。	○施設の日常点検実施 ○施設の修繕箇所:9件(計:1,439,713円)	修繕決定書管理
(エ) 施設管理の記録・保存	施設の点検、修繕等の管理状況を記録し保管する。	○施設管理記録表により記録保管している。	
(オ) 植栽管理			記録簿管理
① 芝生管理	除草、施肥、灌水等	○施肥:6月実施 ○芝刈:5~9月実施 ○目土かけ・エアレーション:9・10月実施	

	② 樹木管理	剪定、施肥、薬剤散布、灌水、冬囲い等	○冬囲い取り外し:5月実施 ○施肥・剪定:6月実施 ○人力除草:6~9月実施 ○落葉清掃:10・11月実施 ○冬囲い設置:11月実施	
イ 衛生管理			実施	
(ア) ゴミの収集・搬出		週3回収集	週3回収集:計45.85m ³	
(イ) 日常・定期清掃の実施		・日常清掃 ・定期清掃(床洗浄・ワックス塗布) トイレ 月1回 ホール・階段 年2回 展示室・研修室等 年1回 ・ガラス定期清掃 年1回	○日常清掃実施 ○定期清掃(床洗浄・ワックス塗布) ・トイレ:月1回実施 ・ホール・階段:9・3月実施 ・展示室・研修室等:3月実施 ○ガラス定期清掃:6月実施	作業記録簿管理
(ウ) 空気環境測定		空気環境測定隔月	○5・7・9・11・1・3実施-異常なし	作業記録簿管理
(エ) 水質検査		一般検査年2回、精密検査年1回	○一般検査:2月実施-異常なし ○一般検査および精密検査:8月実施-異常なし	作業記録簿管理
(オ) 有害駆除		ねずみ、昆虫防除年2回	○4・10月実施	作業記録簿管理
(カ) 貯水槽清掃		年1回	・8月実施	作業記録簿管理
(キ) 汚水槽清掃等		・貯湯槽清掃年1回 ・汚水槽清掃年2回 ・簡易専用水道検査年1回 ・煤煙測定年2回 ・排水設備清掃年2回	○貯湯槽清掃:8月実施 ○汚水槽清掃:4・10月実施 ○簡易専用水道検査:10月実施-問題点・異常なし ○煤煙測定:10・3月実施 ○排水設備清掃:4・10月実施	作業記録簿管理
ウ 警備等				
(ア) 巡視・点検等				
① 定期巡視、建物点検		常駐警備による巡回を行い建物等の点検する。	○常駐警備による巡回を行い建物等の点検をした。 ○常駐警備員1名 ・巡回1日4回(土・日・祝日・年末年始は6回)	
(イ) 警備業務				
① 閉館時から開館時までの警備		常駐警備並びに機械による警備を行う。	○常駐警備員1日1名による警備を行った。 ○警備器機(熱線センサ、シャッターセンサー、マグネットセンサー)による警備を行った。	
② 機械警備装置の設置		警備機器を設置し報知器の作動による警備を行う。	○警備機器を設置し報知器の作動による警備を行った。 ○警備器機(熱線センサー20台、シャッターセンサー2台、マグネットセンサー1台) ○火災警報器並びに防犯モニター等による監視を行った。	
③ 施設施錠		毎日の巡回警備により施錠箇所の確認を行う。	○毎日の巡回警備により施錠箇所の確認を行った。	
④ 国旗、道旗の掲揚		国旗、道旗を掲揚する	○開館日に合わせて、国旗、道旗を掲揚した。	
(ウ) 記録管理				
① 巡視、警備の日誌記録		警備状況を毎日記録し保管する。	○警備状況を毎日記録し保管した。	記録簿管理
エ 除排雪		建築物周辺、駐車場や避難通路等の除排雪(積雪10cm以上で実施)	○契約期間12/1~3/31 ○稼働時間合計: ・トラクターショベル:63.75H ・ダンフラック:49H ・小型ロータリー除雪機21.25H ・バックホウ:0.00H	

オ その他			
(ア) 利用者の安全確保に必要な業務	利用者の状況に応じた安全指導等	○利用者の状況に応じた安全指導等を行った。	
(イ) 環境に配慮した施設の維持管理	環境に配慮した施設の維持管理	○利用していない室は消灯するなど環境に配慮した。	
(2) 運営業務			
ア 施設利用			
(ア) 利用者への接遇	案内、各種受付、資料閲覧、貸出しの承認、指導等適切かつ丁寧な対応	○利用者接遇のため、常設展示室に1名、ホールに1名職員を配置し、来館者に対応するサービスに努めた。	
(イ) 苦情対応	・利用者からの苦情応答、対応 ・苦情処理簿への記録、道教委への報告	○なし	
イ 利用促進業務			
(ア) 広報活動	教育北海道、広報えべつ、道民カレッジガイドブック、財団広報	○各行事について、江別市観光情報サイト・メルマガに掲載 ○各行事について、道政広報計画希望提出、道広報広聴課広報資料掲載依頼・道広報広聴課広報資料7月分掲載:「縄文から弥生へ2」「九州における縄文文化から弥生文化へ」 ○道民カレッジ ・「連携講座」は発展的に廃止となるため、令和4年度以降は「講座情報」の提供として、一般大賞講座・講演会、児童生徒対象体験型講座、遺跡調査報告会について申請、同ガイドブック・HPに掲載。 ○財団広報誌 ・財団の広報誌により発掘調査の情報とともに指定管理業務の行事予定などを紹介し、情報発信	
(イ) バンフレット	施設概要案内、展示公開、講座等の行事予定等の随時発行	○施設概要パンフレット(日本語と外国語併記4種)、行事予定表を関係機関等に配布および館内に設置 ○作成 ・施設概要パンフレット(日本語と英語併記)30,000部 ・連続講座・講演会ポスター150枚、チラシ4種各1,500枚計6,000枚 ・令和4年度行事予定表8,000部 ・「北海道・北東北の縄文遺跡群展」『突起のついた土器 北海道における縄文中期のはじまりとその世界』のポスター50枚・チラシ800枚作成(7/11納品) ○配布・送付(4月) ・成果展ポスター・チラシを近隣施設等に配布 ・連続講座講演会ポスター・チラシ、行事予定表等を82か所に郵送するとともに、近隣施設などに配布(5月) ・連続講座講演会ポスター・チラシ、行事予定表等を江別市郷土資料館ほか74か所に配布(7月) ・「北海道・北東北の縄文遺跡群展」『突起のついた土器 北海道における縄文中期のはじまりとその世界』のポスター48枚・チラシ692枚配布(12月)・「北海道移籍百選15 写真で魅せる縄文の世界」ポスター・チラシ配布	
(ウ) インターネット	ホームページの更新	・財団ホームページを随時更新し、北海道立埋蔵文化財センターの指定管理者として、道立センターの紹介など、新しい情報を発信している。	

			<p>○地域住民 (4月)4件:通所支援事業所「笑」(縄文工房利用)(9名)ほか計35名 (5月)1件:放課後等デイサービスアミティエ米里(縄文工房利用)(5名) (7月)1件:ねこの手デイサービス施設見学(7名) (8月)10件:森の子児童センター団体利用(13名)ほか計99名 (9月)4件:児童デイサービスクローバーズ縄文工房利用(4名)ほか計32名 (10月)8件:児童デイサービスそらいろリンクス縄文工房利用(11名)ほか計78名 (11月)9件:児童デイサービス「ぶらぼーたくほく」縄文工房利用(4名)ほか計67名 (12月)6件:たくあいアクティビティ「むう」縄文工房利用(8名)ほか計49名 (1月)4件:放課後デイサービスCLOVERS縄文工房利用(9名)ほか計30名 (2月)2件:放課後デイサービスめばえ縄文工房利用(12名)ほか計5名 (3月)9件:たくあいアクティビティ「むう」縄文工房利用(6名)ほか計91名</p> <p>○関係機関 (6月)2件:是川縄文館ボランティアガイド施設見学(8名)ほか計32名</p> <p>○学校等 ・5/6:北海道野幌高等学校「令和4年度総合的な探究の時間」(91名)</p> <p>○公立施設 ・9/17:北海道立図書館「ぶち図書館まつりまが玉づくり体験」(20名)</p>	
	(エ) 地域住民等との協働推進	<p>・地域住民や関係機関との協働の推進 ・住民、学校、公立施設等との協働</p>		
	(オ) 利用者満足度調査の実施			
	① 教育委員会の指示による調査	道教委の指示による調査		
	② 指定管理者による調査	指定管理者として施設利用者に対する調査	<p>・一般入館者対象:4/22~2023/3/31実施 ・講座・講演会参加者対象:5/21、7/23、9/3、10/22、2/4、3/18実施</p>	
	ウ 事故処理等			
	(ア) 安全対策、危機管理、連絡体制、事故処理	緊急時の関係機関への連絡体制の確立等	・財団の消防計画により緊急時の対応や連絡体制を整備している。	
	(イ) 保険加入	第三者賠償責任及び施設賠償責任保険加入	・4月1日から一般来館者及び各種事業参加者の損害賠償の保障体制を整備するため第三者賠償責任及び施設賠償責任保険に加入している。	
	エ 災害時対応	<p>・利用者の安全確保のため必要な処置をする。 ・消防訓練年1回</p>	<p>・財団の消防計画により災害があった場合の施設利用者の安全確保などを整備した。 ・消防訓練:11/10実施</p>	
	オ 報告等	<p>・事業報告書 毎年度事業終了後30日以内</p> <p>・四半期業務報告書 四半期終了後10日以内</p>	<p>・報告日 令和4年4月28日</p> <p>・報告日 第1・四半期 令和4年7月6日 第2・四半期 令和4年10月8日 第3・四半期 令和5年1月10日 第4・四半期 令和5年4月8日</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・報告日 令和4年4月分 令和4年5月2日 令和4年5月分 令和4年6月3日 令和4年6月分 令和4年7月4日 令和4年7月分 令和4年8月5日 令和4年8月分 令和4年9月2日 令和4年9月分 令和4年10月3日 令和4年10月分 令和4年11月1日 令和4年11月分 令和4年12月6日 令和4年12月分 令和5年1月5日 令和5年1月分 令和5年2月6日 令和5年2月分 令和5年3月1日 令和5年3月分 令和5年4月5日 	
オ 報告等	・利用状況の報告 翌月10日まで		
オ 指定管理者の名称表示	指定管理者の名称を施設内及びパンフレットに表示する。	・施設内及びパンフレット等に表示中	
カ その他	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会の加入	・全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会へ加入し、情報収集に努めた。	
(3) 調査研究業務			
ア 重要遺跡確認調査	興部町興部豊野竪穴群(B)	<ul style="list-style-type: none"> ・道教委との打ち合わせ、発掘調査計画策定 ・地元町教委、土地所有者との打ち合せ。 ・測量・草刈り委託 ・10/11～28:現地調査 ・10/22:現地説明会 ・10/29～整理作業 ・3/29:重要遺跡確認調査第18集刊行 	
イ 埋蔵文化財の調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財調査方法、遺跡の保存方法の研究・情報提供 ・保管出土品を活用した研究 ・全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会等の専門的、技術的な情報等の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要遺跡確認調査を通じた効果的・効率的な遺跡調査・保存方法の研究 ・保管出土品を対象とした分析作業 ・全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会に加入し、情報収集に努めている ・10/20:全国公立埋蔵文化財連絡協議会第34回研修会開催 ・11/1:全国埋蔵文化財連絡協議会研修会1名出席 	
ウ 分析・鑑定・保存処理	専門的知識を有する調査員による分析・鑑定等及び保存処理・整理	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的知識を有する調査員を配置 ・分析・鑑定:保管出土品を対象とした分析作業 ・保存処理:重要文化財等の特別収蔵庫収納・整理等、脆弱あるいは破損した出土品の保存処理作業等 ・写真:模写品等の刊行等の承認に係る貸出資料の整理等 	
エ 市町村支援等	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財に関する情報提供 ・市町村教委担当職員に対する研修等による指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○収集資料等の提供 ・なし ○遺跡の保存方法、調査方法及び保存処理技術等に関する情報提供 ・なし ○市町村からの依頼・現地指導 ・なし ○研修会 ・9/15洞爺湖町(12名)、11/4江別市(28名)で実施 	
(4) 収蔵・保管業務			
ア 受入、分類・整理、保管	出土文化財の特性に応じ、一般収蔵庫、特別収蔵庫に分類整理して保管	<ul style="list-style-type: none"> ・保管中の出土文化財を整理 ・北海道出土文化財取扱要綱等により台帳を作成し管理 	

(5) 普及・啓発事業			
ア 展示公開			
(ア) 常設展示	年1回以上の模様替え	<p>○常設展示:「掘り出された北の歴史」</p> <p>○模様替え</p> <p>○5月: ・5/30・31:企画展「令和3年度調査成果展」から常設展への模様替え</p> <p>○6月:なし</p> <p>○7月: ・7/5～9:常設展示から企画展示「北海道・北東北の縄文遺跡群展」『突起のついた土器 北海道における縄文中期のはじまりとその世界』への模様替え</p> <p>○8月:なし</p> <p>○9月: ・9/26:企画展示「北海道・北東北の縄文遺跡群展」『突起のついた土器 北海道における縄文中期のはじまりとその世界』から常設展示「掘り出された北の歴史」への模様替え</p> <p>○10月:なし</p> <p>○11月: ・11/28～12/2:常設展から企画展「北海道遺跡百選15 写真で魅せる縄文の世界」展からへの模様替え</p> <p>○12月:なし</p> <p>○1月:なし</p> <p>○2月 ・2/27～3/2:「北海道遺跡百選15 写真で魅せる縄文の世界」展から常設展示への模様替え</p> <p>○3月 ・3/21～24:常設展示から「(公財)北海道埋蔵文化財センター令和4年度調査成果展」への模様替え</p>	
(イ) 企画展示	年3回(うち1回は財団自主事業)	<p>○企画展示</p> <p>・3/26～5/29:「(公財)北海道埋蔵文化財センター令和3年度発掘調査成果展」</p> <p>・7/9～9/25:「北海道・北東北の縄文遺跡群展」『突起のついた土器 北海道における縄文中期のはじまりとその世界』</p> <p>・12/3～2023/ 2/26「北海道遺跡百選15 写真で魅せる縄文の世界」展</p> <p>○通年展示</p> <p>・4/1～3/31:「北の縄文 世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群 展」</p>	
イ 特別利用			
(ア) 特別利用	センター設置条例8条・9条により処理	30件:(北海道大学大学院医学研究院助教 中沢 祐一ほか)	
(イ) 模写品等の刊行等の承認	センター設置条例10条により処理	35件:(石狩市教育委員会文化財課学芸員 荒山 千恵ほか)	
(ウ) 資料の貸出し	センター設置条例11条により処理	14件:(岩手県立博物館 館長 高橋 廣志ほか)	
ウ 年報等の作成・配布等			
(ア) 年報	・講座等の事業の紹介や調査及び研究の成果等を公表するとともに、年報を必要部数作成し、市町村教育委員会等へ配布	○「北海道立埋蔵文化財センター年報23」 ・6/30刊行、350部 ・文化庁、国立国会図書館ほか関係機関等へ配付	

エ 講座等の開催			
(ア) 一般道民対象講座	年5回以上	<p>①キーワードで読み解く北海道・北東北の縄文遺跡群1 「日本列島の貝塚から見た世界文化遺産の貝塚」 令和4年7月23日(土)参加者:58名</p> <p>②縄文から弥生へ2 「九州における縄文文化から弥生文化」 令和4年9月3日(土)参加者:62名</p> <p>③「縄文人に挑戦」 令和4年10月29日(土)参加者:18名</p> <p>④縄文から弥生へ4 「縄文・弥生の社会変動と弥生布の拡散」 令和5年2月4日(土)参加者:59名</p> <p>⑤比べて分かる道内の堅穴群1 「堅穴集落とアイヌ民族の歴史」 令和5年3月18日(土)参加者:63名</p>	
(イ) 児童生徒対象の体験型講座	年5回以上	<p>①まいぶん遺跡探検隊1「土器」 令和4年7月30日(土)参加者:21名</p> <p>②まいぶん遺跡探検隊2「土器」 令和4年8月6日(土)参加者:14名</p> <p>③親子ガラス玉づくり教室 令和4年11月12日(土)参加者19名</p> <p>④まいぶん遺跡探検隊3「勾玉」 令和5年1月7日(土)参加者:20名</p> <p>⑤まいぶん遺跡探検隊4「火おこし」 令和5年1月14日(土)参加者:15名</p>	
(ウ) 児童生徒対象の出前講座	年7回以上	<p>①滝上町 滝上町郷土館 令和4年6月5日(日)参加者:18名</p> <p>②江差町 江差町開陽丸青少年センター 令和4年6月18日(土)参加者:17名</p> <p>③下川町 下川町公民館 令和4年8月5日(金)参加者:18名</p> <p>④余市町 余市町図書館 令和4年8月10日(水)参加者:14名</p> <p>⑤江別市 江別市野幌公民館 令和4年8月13日(土)参加者:11名</p> <p>⑥留萌市 留萌市海のふるさと館 令和4年9月11日(日)参加者:30名</p> <p>⑦置戸町 置戸町中央公民館 令和4年9月17日(土)参加者:7名</p> <p>⑧遠別町 遠別町生涯学習センター 令和4年10月1日(土)参加者:28名</p> <p>⑨千歳市 千歳市総合福祉センター 令和4年11月26日(土)参加者:25名</p> <p>⑩小樽市 小樽市立忍路小中学校 令和4年12月22日(木)参加者:24名</p>	
(エ) 一般道民対象講演会	年2回以上	<p>①「(公財)北海道埋蔵文化財センター令和3年度調査報告会」 令和4年4月16日(土)参加者:63名</p> <p>②春季講演会 縄文から弥生へ1 「弥生文化とは何か」 令和4年5月21日(土)参加者:60名</p> <p>③秋季講演会 縄文から弥生へ3 「近畿における縄文文化から弥生文化」 令和4年10月22日(土)参加者:64名</p>	
(オ) 道立文化施設や市町村博物館等との連携	・(ア)～(ウ)のうち連携事業1回以上 ・かるちやるnet(新札幌・江別エリア文化施設連絡協議会)に加入、活動	<p>○連携事業:なし</p> <p>○かるちやるnet:かるちやる通信4～6月号・7～9月号・10～12月号・1～3月号発行(web配信)</p> <p>○文京台教育3施設施設連携:行事案内を合同で作成し地域住民に回覧している</p>	

<p>(カ) 教育連携講座</p>	<p>年10回</p>	<p>(運營業務—利用促進—地域住民との協働の推進と重複) ①博物館実習 ・7/19～29:札幌学院大学(2名) ②道立埋蔵文化財センター活用学習のための指導者研修(教職員対象) ・8/5:新ひだか町立静内小学校教諭(1名) ③教育連携講座 ○施設利用 ○小学校 ・5/2:上江別小学校施設見学体験学習(124名) ・6/23:札幌市立小野幌小学校施設見学体験学習(39名) ・6/29:札幌市立小野幌小学校施設見学体験学習(34名) ・6/30:札幌市立小野幌小学校施設見学体験学習(31名) ・10/13:江別市文京台小学校特別支援学級親子レク施設見学・体験学習(27名) ○小中学校 ・6/13:学校法人三幸学園飛鳥未来初等部・中等部施設見学体験学習(8名) ○中学校 ・11/2:札幌市立栄南中学校特別支援学級校外学習(6名) ○高校 ・6/15:北海道野幌高等学校2年生総合学習施設見学体験学習(91名) ○大学 ・5/12:札幌学院大学大塚先生博物館資料論1回目(19名) ・5/13:札幌学院大学大塚先生地域文化演習A(23名) ・5/18:札幌学院大学大塚先生考古学A1回目(36名) ・5/29:北翔大学短期大学部菊地先生「社会」講義利用(5名) ・7/3:北翔大学短期大学部菊地先生「社会科指導法」(21名) ・7/14:札幌学院大学大塚先生「博物館資料論」(20名) ・7/22:北翔大学前川先生「専門演習Ⅰ・卒業研究」(11名) ・7/28:札幌学院大学大塚先生「考古学A」(27名) ・10/3:北翔大学短期大学部佐々木先生地域学Ⅱ講義利用(4名) ・10/11:札幌学院大学大塚先生博物館経理論①(15名) ・10/18:札幌学院大学大塚先生博物館経営論②(15名) ・11/9:北翔大学小杉先生博物館情報メディア論①(9名) ・11/16:北翔大学小杉先生博物館情報メディア論②(10名) ・11/18:札幌学院大学菊地先生自然地理学概説(19名) ・11/18:札幌学院大学菊地先生人文地理学概説(27名) ・11/29:北翔大学小杉先生専門演習Ⅱ①(7名) ・11/30:北翔大学小杉先生博物館情報メディア論③(9名) ・12/3:札幌学院大学田口先生博物館資料保存論(13名) ・12/13:北翔大学小杉先生専門演習Ⅱ②(8名) ・12/16:札幌学院大学田口先生博物館資料保存論補講(5名)</p>
-------------------	-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○児童関係の団体

- ・4/1:通所支援事業所「笑」(縄文工房利用)(9名)
- ・4/1:児童デイサービス「ぶんぶん」(施設見学・縄文工房お持ち帰り)(12名)
- ・4/12:児童デイサービスポレポレ(縄文工房お持ち帰り)(8名)
- ・4/20:児童通所支援センタークオレ平岡(縄文工房利用)(6名)
- ・5/8:放課後等デイサービスアミティエ米里(縄文工房利用)(5名)
- ・7/8:ねこの手デイサービス施設見学(7名)
- ・8/2:森の子児童センター団体利用(13名)
- ・8/3:放課後等デイサービスワクワクシード団体利用(6名)
- ・8/4:児童通所支援センタークオレ平岡縄文工房お持ち帰り(12名)
- ・8/6:児童デイサービスあじさい施設見学(12名)
- ・8/6:放課後等デイサービスぶらぼーたくほく縄文工房利用(5名)
- ・8/9:放課後等デイサービスぶらぼーたくほく縄文工房利用(15名)
- ・8/16:児童デイサービスぱっそ西岡縄文工房利用(10名)
- ・8/17:放課後デイサービスぶらぼーたくほく縄文工房利用(6名)
- ・8/18:児童デイサービスぱっそ西岡縄文工房利用(12名)
- ・8/18:児童デイサービス笑縄文工房利用(8名)
- ・9/17:児童デイサービスクローバーズ縄文工房利用(4名)
- ・9/17:児童デイサービスもしも縄文工房利用(13名)
- ・9/19:児童デイサービスぐりんカレッジ縄文工房利用(9名)
- ・10/1:児童デイサービスそらいろリンクス縄文工房利用(11名)
- ・10/7:江別市立江別第一小学校児童クラブ施設見学・体験学習(18名)
- ・10/8:児童デイサービスあんじゅ縄文工房お持ち帰り利用(8名)
- ・10/8:児童デイサービス輝～Le Ps～縄文工房お持ち帰り利用(3名)
- ・10/14:児童デイサービスポレポレ縄文工房利用(8名)
- ・10/29:放課後等デイサービス「輝」縄文工房利用(5名)
- ・10/29:放課後等デイサービス「green」縄文工房利用(10名)
- ・10/29:たくあいアクティビティ「むう」縄文工房利用(15名)
- ・11/1:児童デイサービス「ぶらぼーたくほく」縄文工房利用(4名)
- ・11/5:児童デイサービス「ゴドモ1」縄文工房利用(8名)
- ・11/5:児童クラブ「めばえ」縄文工房利用(10名)
- ・11/5:児童クラブ「ソライロ」縄文工房利用(12名)
- ・11/15:ぶらぼーたくほく縄文工房利用(7名)
- ・11/16:ぶらぼーたくほく縄文工房利用(6名)
- ・11/25:ぶらぼーたくほく縄文工房利用(5名)
- ・11/12:児童デイサービス「札幌協働福祉会」縄文工房利用(6名)

- ・12/3:たくあいアクティビティむう縄文工房利用(8名)
- ・12/8:クレオ文京台縄文工房利用(6名)
- ・12/10:児童デイサービスパッソ西岡縄文工房利用(8名)
- ・12/16:児童デイサービスポレポレ縄文工房利用(7名)
- ・12/27:放課後デイサービスぐりんカレッジ縄文工房利用(10名)
- ・12/27:通所支援事業所ほほ笑み縄文工房利用(10名)

- ・1/4:放課後デイサービスCLOVERS縄文工房利用(9名)
- ・1/7:放課後デイサービスアウル縄文工房利用(7名)
- ・1/12:児童デイサービスくりあ縄文工房利用(7名)
- ・1/13:児童デイサービスおひさまの森縄文工房利用(7名)
- ・2/25:放課後デイサービスめばえ縄文工房利用(12名)
- ・2/25:放課後デイサービスぬくもりの森中央縄文工房利用(13名)
- ・3/11:たくあいアクティビティ「むう」縄文工房利用(6名)
- ・3/15:ぶらぼーたくほく縄文工房利用(9名)
- ・3/17:児童デイサービスぬくもりの森北光縄文工房利用(6名)
- ・3/25:児童発達支援放課後デイサービスぶるーむ施設見学体験学習(12名)
- ・3/28:児童発達支援デイサービスぬくもりの森北光縄文工房利用(6名)
- ・3/28:放課後デイサービスアミティエ光星縄文工房利用(15名)
- ・3/30:児童デイサービスきらきら大麻縄文工房利用(11名)
- ・3/31:児童デイサービスほほ笑み縄文工房利用(17名)

○その他の団体

- ・6/7:是川縄文館ボランティアガイド施設見学(8名)
- ・6/25令和4年度土曜日の学習支援活動「縄文文化を学ぼう！」(長沼町教育委員会)(15名)
- ・9/29:NHK文化センター越田先生施設見学(6名)
- ・11/8:CBツアーズ道庁事業受託団体利用(9名)
- ・12/1:縄文遺跡群ボランティアガイド養成講座(12名)
- ・3/4:縄文遺跡群ボランティアガイド養成講座修了検定(3名)
- ・3/10:縄文遺跡群ボランティアガイド養成講座修了検定(3名)
- ・3/17:オコンシンベの会施設見学(9名)

○講師派遣

- ・5/6:北海道野幌高等学校「令和4年度総合的な探究の時間」(91名)
- ・9/17:北海道立図書館「ぶち図書館まつりまが玉づくり体験」(20名)

2 当該公の施設の利用状況に関する事項

- (1) 施設、事業又は利用料金等の区分別利用者数の状況、備品等の貸出し状況
ア 月別利用者（入館者）数

(単位：人)

月	見込	実績	差
4月	600	670	70
5月	750	887	137
6月	700	739	39
7月	750	749	-1
8月	800	789	-11
9月	600	723	123
10月	500	798	298
11月	400	627	227
12月	250	382	132
1月	300	318	18
2月	250	285	35
3月	300	480	180
計	6,200	7,447	1,247

イ 事業別利用者数

(単位：人)

	事業名	開催期日	見込	実績
企画 展示	「(公財)北海道埋蔵文化財センター 令和3年度調査成果展」	令和4年 3月26日(土)～ 令和5年 5月29日(日)	1,340	1,693
	「北海道・北東北の縄文遺跡群」展	令和4年 7月 9日(土)～ 令和4年 9月25日(日)	1,800	2,066
	「北海道遺跡百選 15－北海道埋蔵文化財 センターの調査から－」展	令和4年12月 3日(土)～ 令和5年 2月26日(日)	780	949
	「北の縄文 ～世界遺産 北海道・北東北 の縄文遺跡群～」展	令和4年 4月 1日(土)～ 令和5年 3月31日(木)	(6200)	7,447
講演 会等	「(公財)北海道埋蔵文化財センター 令和3年度調査報告会」	令和4年 4月16日(土) 13:30～15:30	(66)	63
	春季講演会 縄文から弥生へ1「弥生文 化とは何か」	令和4年 5月21日(土) 13:30～15:30	(66)	60
	秋季講演会 縄文から弥生へ3「近畿に おける縄文文化から弥生文化」	令和4年10月22日(土) 13:30～15:30	(66)	64
考古 学講 座	キーワードで読み解く北海道・北東北の 縄文遺跡群1「日本列島の貝塚から見た 世界文化遺産の貝塚」	令和4年 7月23日(土) 13:30～15:30	(66)	58
	縄文から弥生へ2「九州における縄文文化 から弥生文化」	令和4年 9月 3日(土) 13:30～15:30	(66)	62
	「縄文人に挑戦」	令和4年10月29日(土) 13:30～15:30	(20)	18
	縄文から弥生へ4「縄文・弥生の社会変動 と弥生布の拡散」	令和5年 2月 4日(土) 13:30～15:30	(66)	59
	比べてわかる道内の堅穴群1「堅穴集落と アイヌ民族の歴史」	令和5年 3月18日(土) 13:30～15:30	(66)	63

こども考古学教室	まいぶん遺跡探検隊（第1次） 縄文土器のもよみのヒミツをさぐれ！	令和4年 7月30日（土） 13:30～15:30	(20)	21
	まいぶん遺跡探検隊（第2次） 縄文土器のヒミツをさぐれ！	令和4年 8月 6日（土） 13:30～15:30	(20)	14
	親子ガラス玉づくり教室	令和4年11月12日（土） 13:30～15:30	(15)	19
	まいぶん遺跡探検隊（第3次） じょうもん勾玉に挑戦！	令和5年 1月 7日（土） 13:30～15:30	(20)	20
	まいぶん遺跡探検隊（第4次） 火おこしに挑戦！	令和5年 1月14日（土） 13:30～15:30	(20)	15
出前講座	「考古学教室出前講座」	10回実施		192
研修会	埋蔵文化財担当職員出前研修会	令和4年 9月15日（木） 13:00～17:30		12
	埋蔵文化財担当職員研修会Ⅱ	令和4年11月 4日（日） 10:00～17:00		28

ウ 備品等の貸出

令和4年度においては、備品等の貸出実績はありません。

(2) 利用の承認及び取消し等の状況

ア 利用の承認等の状況

(ア) 特別利用

北海道大学大学院医学研究院助教中沢祐一氏から千歳市柏台1遺跡出土礫石器・礫の閲覧・撮影のほか、計30件の利用があった。

(イ) 模写品等の刊行等の承認

石狩市教育委員会文化財課学芸員荒山千恵氏から千歳市キウス4遺跡木製容器写真デジタルデータほか、計35件の申請があり、道教委との協議、申請者への承認書の送付を行った。

(ウ) 資料の貸出し

岩手県立博物館長高橋廣至への千歳市柏台1遺跡出土石器の貸出しのほか、計14件の貸出しを行った。

(単位：件)

月	特別利用承認	模写品等使用承認	資料貸出承認
4月	4	4	2
5月	3	2	0
6月	2	2	0
7月	3	2	2
8月	1	4	1
9月	0	2	0
10月	0	2	0
11月	6	3	1
12月	6	3	2
1月	0	3	1
2月	4	2	3
3月	1	6	2
計	30	35	14

イ 承認の取消し

取消の実績はありません。

別紙3

管理に係る経費の収支状況に関する事項

- 1 年間収支計画（指定管理業務に係る収入及び支出（業務に係る経費等）の年間計画）の実績別表1
- 2 年間収支の月別計画に対する実績別表2
- 3 年間収支計画に関する内訳、注記その他必要な事項別表3

年間収支実績

収入の部

区 分	内 訳	金額		
		計画	実績	差引
負担金	指定管理業務負担金	121,361,819	121,361,819	0
その他収入	仮払消費税	12,136,181	12,136,181	0
				0
収入計		133,498,000	133,498,000	0

支出の部

区 分	内 訳	金額		
		計画	実績	差引
事業費		7,016,847	6,262,191	▲ 754,656
調査研究事業	重要遺跡確認調査ほか	4,097,104	3,727,638	▲ 369,466
収蔵・保管事業	受入、分類、整理、保管等	42,500	13,675	▲ 28,825
普及・啓発事業	収蔵資料の展示公開ほか	2,877,243	2,520,878	▲ 356,365
管理経費		58,712,453	59,848,903	1,136,450
維持管理業務	施設の保守ほか	55,256,215	57,768,432	2,512,217
運營業務	施設利用ほか	3,456,238	2,080,471	▲ 1,375,767
人件費	関係職員報酬	55,632,519	55,233,822	▲ 398,697
その他経費	仮払消費税	12,136,181	12,136,181	0
支出計		133,498,000	133,481,097	▲ 16,903

収支差額		0	16,903	16,903
------	--	---	--------	--------

年間収支の月別実績

(単位：円)

区分	内訳	合計	収入の部															
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
負担金収入	計画	133,498,000	32,192,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	4,736,000
	実績	133,498,000	32,192,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	4,736,000
指定管理業務負担金	計画	133,498,000	32,192,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	4,736,000
	実績	133,498,000	32,192,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	4,736,000
繰越金	計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収入計	計画	133,498,000	32,192,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	4,736,000
	実績	133,498,000	32,192,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	32,190,000	0	0	4,736,000
収入累計	計画	133,498,000	32,192,000	32,192,000	32,192,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	128,762,000
	実績	133,498,000	32,192,000	32,192,000	32,192,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	64,382,000	128,762,000
支出の部																		
事業費	計画	7,016,647	146,014	610,319	1,220,012	171,100	165,446	1,966,565	354,746	613,433	394,132	107,541	205,550	1,051,999				
	実績	6,262,191	31,273	240,733	130,505	982,157	263,913	256,001	1,410,715	393,809	66,860	1,347,610	72,616	940,998				
調査研究事業	計画	4,097,104	56,714	107,755	258,210	2,000	97,146	1,752,813	171,646	316,000	310,582	29,000	24,000	973,238				
	実績	3,727,628	31,273	18,372	22,771	9,511	5,708	1,352,241	1,115,490	254,933	18,310	1,206,170	1,770	648,089				
重要選別確認調査	計画	2,811,783	3,476	31,755	76,310	1,000	1,000	1,525,722	78,500	315,000	1,000	1,000	6,000	771,000				
	実績	3,101,140	30,439	14,728	937	937	937	43,604	818,636	352,242	936	1,250,936	936	685,872				
歴史文化財の調査研究	計画	530,259	1,238	24,000	100,000	0	95,146	94,491	92,146	0	109,000	10,000	0	4,238				
	実績	305,658	0	2,810	21,000	7,740	3,937	63,655	12,346	1,857	16,540	14,400	0	161,363				
分析・鑑定保存処理	計画	466,000	52,000	35,000	35,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	88,000	18,000	18,000	198,000				
	実績	10,008	834	334	834	834	834	834	834	834	834	834	834	834				
研修会等の開催	計画	289,082	0	44,900	0	0	0	131,600	0	0	112,582	0	0	0				
	実績	310,822	0	0	0	0	0	27,148	283,674	0	0	0	0	0				
取蔵・保管事業	計画	42,500	0	0	42,500	0	0	0	0	0	0	0	0					
	実績	13,675	0	0	0	0	0	0	8,675	5,000	0	0	0					
取蔵・保管	計画	42,500	0	0	42,500	0	0	0	0	0	0	0	0					
	実績	13,675	0	0	0	0	0	0	8,675	5,000	0	0	0					
普及・啓発事業	計画	2,877,243	89,300	502,564	931,302	169,100	68,300	213,752	183,100	297,433	83,550	78,541	181,550	78,751				
	実績	2,520,878	0	222,361	107,733	972,646	263,205	120,760	286,550	133,876	68,550	181,440	70,846	92,909				
取蔵資料展示公開	計画	1,396,800	79,300	202,000	305,000	65,300	65,300	105,700	72,300	112,700	72,300	72,300	172,300	72,300				
	実績	822,268	0	101,670	67,750	69,031	103,520	49,486	105,175	73,620	56,640	44,840	58,846	91,690				
資料の特別利用	計画	63,000	10,000	10,000	10,000	0	0	0	5,000	5,000	5,000	5,000	8,000	5,000				
	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
年報等の作成・配布	計画	510,000	0	0	510,000	0	0	0	0	0	0	0	0					
	実績	730,450	0	0	0	730,450	0	0	0	0	0	0	0					
講座等の開催	計画	900,922	0	290,564	105,800	103,800	3,000	107,582	105,800	179,446	5,000	0	0					
	実績	988,160	0	123,691	39,985	173,165	159,685	71,274	181,375	60,256	11,910	135,600	12,000					
協賛事業	計画	6,451	0	502	0	287	0	470	0	0	1,250	1,250	1,451					
	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					

年間収支の月別実績

(単位：円)

区分	内訳	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績	計画 実績
管理経費	維持管理業務	計画	58,712,453	4,177,587	4,536,325	4,246,587	4,250,828	4,246,591	4,373,227	4,422,089	5,167,832	4,909,592	4,572,831	6,716,287	
		実績	59,846,903	1,779,787	3,384,527	4,446,461	5,415,821	5,233,772	4,386,895	5,125,431	4,212,478	4,741,732	5,339,993	5,610,379	9,692,030
	施設の維持等	計画	55,256,215	3,941,727	4,086,726	4,086,727	4,086,730	4,086,730	4,086,731	4,086,730	4,086,730	4,086,730	4,086,730	4,086,730	4,086,730
		実績	57,768,432	1,654,889	3,737,687	4,031,962	5,362,472	5,265,080	4,802,937	5,048,426	4,171,981	5,272,377	5,580,050	9,032,285	6,547,189
	電気料ほか	計画	30,986,215	2,223,397	2,223,397	2,223,397	2,223,397	2,223,397	2,223,398	2,223,397	2,223,396	2,223,397	2,223,396	2,223,396	2,223,396
		実績	35,199,752	1,654,889	1,939,366	2,474,072	3,484,562	3,116,190	3,070,047	3,165,636	2,469,061	3,714,467	3,372,160	4,529,505	4,529,505
	各種委託業務	計画	22,070,000	1,718,330	1,863,330	1,863,330	1,863,330	1,863,330	1,863,333	1,863,333	1,863,333	2,080,837	1,718,337	1,718,337	1,718,337
		実績	21,084,680	0	1,527,890	1,527,890	1,877,690	2,148,890	1,732,890	1,732,890	1,835,890	1,702,890	1,527,890	1,527,890	3,689,730
	除排雪	計画	2,200,000	0	0	0	0	0	0	0	100,000	550,000	800,000	450,000	300,000
		実績	1,484,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	680,000	804,000
運営業務	計画	3,456,238	235,860	1,005,951	449,598	164,098	164,098	159,860	286,497	162,860	313,598	167,860	181,098	169,098	
	実績	2,080,471	94,888	403,511	67,251	53,349	53,349	68,092	94,058	77,005	40,495	67,616	30,329	689,745	
施設利用ほか	計画	3,456,238	235,860	1,005,951	449,598	164,098	164,098	159,860	286,497	162,860	313,598	167,860	181,098	169,098	
	実績	2,080,471	94,888	403,511	67,251	53,349	53,349	68,092	94,058	77,005	40,495	67,616	30,329	689,745	
コロナ対策物品等	計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人件費	役員報酬	計画	55,632,519	4,490,840	4,490,840	4,490,840	4,490,840	4,490,840	4,490,840	4,490,840	4,646,059	4,646,059	4,646,059	4,713,181	
		実績	55,233,822	3,754,775	4,435,898	4,406,898	4,561,517	4,420,945	4,427,694	4,418,968	4,394,219	4,507,761	4,398,967	4,398,967	7,174,756
	役員給与	計画	1,908,141	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385
		実績	1,908,141	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385	152,385
	職員給与	計画	36,811,380	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615
		実績	38,411,880	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615	3,067,615
	共済費	計画	6,417,331	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,777	534,777	534,777	534,777	534,777
		実績	6,696,320	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778	534,778
	賃金	計画	9,172,446	631,228	631,228	631,228	631,228	631,228	631,228	631,228	786,448	786,448	786,448	786,448	786,448
		実績	7,060,625	0	587,971	543,496	622,898	596,306	581,009	581,009	572,283	579,444	569,166	561,040	1,204,288
共済費	計画	1,402,742	104,834	104,834	104,834	104,834	104,834	104,834	104,834	104,834	104,834	104,834	104,834	104,834	
	実績	1,157,463	0	93,152	93,152	183,844	69,854	91,910	91,910	91,910	91,910	183,820	93,152	256,649	
その他経費	計画	12,136,181	881,444	1,019,384	1,025,718	890,711	890,711	1,144,799	937,403	968,158	1,020,802	966,319	942,445	1,448,145	
	実績	12,136,181	881,444	1,019,384	1,025,718	890,711	890,711	1,144,799	937,403	968,158	1,020,802	966,319	942,445	1,448,145	
戻付消費税	計画	133,498,000	9,695,885	11,213,220	11,282,895	9,791,825	9,791,825	12,592,795	10,311,436	10,649,739	11,238,825	10,629,511	10,366,837	15,929,602	
	実績	133,481,697	5,535,655	8,617,859	8,406,456	9,835,520	10,246,251	10,010,718	10,735,404	9,938,208	8,633,555	11,295,361	10,081,962	29,943,965	
支出計	計画	133,498,000	20,909,105	32,192,000	41,991,380	51,788,205	64,382,060	74,693,436	85,343,175	96,572,000	107,201,531	117,568,398	123,498,000		
	実績	133,481,697	5,535,655	14,353,694	22,780,150	32,585,670	42,841,921	52,852,639	63,568,843	73,526,251	82,159,806	93,455,170	103,537,132	133,481,697	
収支差額	計画	0	22,496,115	11,282,895	0	22,390,620	12,592,795	0	21,878,664	11,238,825	0	21,560,489	11,193,602	0	
	実績	16,903	26,656,165	17,636,305	9,431,850	31,786,330	21,540,979	11,529,361	32,963,957	23,045,749	14,412,194	35,306,830	35,294,863	16,903	

年間収支実績に関する内訳

収入の部（明細）

区 分	内 訳	金額		
		計画	実績	差引
負担金	指定管理業務負担金	121,361,819	121,361,819	0
その他収入		12,136,181	12,136,181	0
	仮払消費税	12,136,181	12,136,181	0
収入計		133,498,000	133,498,000	0

年間収支実績に関する内訳

支出の部（明細）

区 分	内 訳	金額(円)		
		計画	実績	差引
事業費		7,016,847	6,262,191	▲ 754,656
調査研究事業		4,097,104	3,727,638	▲ 369,466
重要遺跡確認調査	測量調査ほか	2,811,763	3,101,140	289,377
埋蔵文化財の調査研究	資料収集ほか	530,259	305,668	▲ 224,591
分析・鑑定保存処理	木製品・金属製品保存処理ほか	466,000	10,008	▲ 455,992
研修会等		289,082	310,822	21,740
収蔵・保管事業		42,500	13,675	▲ 28,825
収蔵・保管	コンテナほか	42,500	13,675	▲ 28,825
普及・啓発事業		2,877,243	2,520,878	▲ 356,365
収蔵資料展示公開	常設展示ほか	1,396,800	822,268	▲ 574,532
資料の特別利用	資料の貸出等	63,000	0	▲ 63,000
年報等の作成・配布	調査年報の作成ほか	510,000	730,450	220,450
講座等の開催	考古学教室の開催ほか	900,992	968,160	67,168
協賛事業	教育関連事業共催	6,451	0	▲ 6,451
管理経費		58,712,453	59,848,903	1,136,450
維持管理業務		55,256,215	57,768,432	2,512,217
施設の維持等	電気料ほか	30,986,215	35,199,752	4,213,537
各種委託業務	清掃、空調機保守ほか	22,070,000	21,084,680	▲ 985,320
除排雪	除排雪	2,200,000	1,484,000	▲ 716,000
運営業務		3,456,238	2,080,471	▲ 1,375,767
施設利用ほか	複写機借上ほか	3,456,238	2,080,471	▲ 1,375,767
コロナ対策備品等	衛生用品ほか	0	0	0
人件費		55,632,519	55,233,822	▲ 398,697
報酬	所長・副所長	1,828,620	1,908,144	79,524
職員給与	普及活用課職員ほか	36,811,380	38,411,880	1,600,500
共済費	所長・副所長ほか	6,417,331	6,696,320	278,989
賃金	普及活用補助員ほか	9,172,446	7,060,025	▲ 2,112,421
共済費	普及活用補助員ほか共済費	1,402,742	1,157,453	▲ 245,289
その他経費		12,136,181	12,136,181	0
仮払消費税		12,136,181	12,136,181	0
支 出 計		133,498,000	133,481,097	▲ 16,903

管理の目標に係る達成状況に関する事項

管理の目標達成計画に対する実績（目標達成のため講ずべき措置等の実施状況、目標達成度の評価結果、目標達成状況に関する説明等）

1 目標達成のため講ずべき措置等の実施状況

(1) 目標に対する実績

	達成目標	業績指標	実 績
①調査研究	・重要遺跡確認調査 (遺跡内容の把握)	1遺跡	○ 興部町興部豊野堅穴群の調査を実施した。
	・市町村埋蔵文化財担当 職員研修会等の実施	年2回	○ 洞爺湖町において出前研修会を実施した。 ○ 道立センターでの研修会は令和4年11月4日に実施した。
②利用の促進	・公開展示（常設展） (常設展示室利用)	通年1回 (模様替え年1回以上)	○ 通年開催した。 ・企画展に合わせた6回を含め、平均して2ヶ月に1回程度の模様替えを行った。
	・公開展示（企画展） (ホール・ロビー利用)	「北の縄文展」 を含み年2回	○ 年4回開催した。
	・利用者数	6,200人	○ 7,447人の利用者があった。 ・年間を通し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響による減少があった。
③普及啓発の 推進	・講座等の開催	年19回 (一般講座5回 体験講座5回 出前講座7回 講演会2回)	○ 年23回実施した。 ・講演会 3回(報告会1回含む) ・考古学講座 5回 ・こども考古学教室 5回 ・出前講座 10回 (ほかに講師派遣2回)
④利用者満足 度の向上	・利用者満足度の向上	80%以上	○ 北海道教育委員会で実施した調査結果では満足・やや満足が100%であった。 ○ 財団で行った満足度調査では満足・やや満足が94.9%であった。また講座・講演会で実施した結果も全て満足・やや満足が90%を超えている。
⑤地域住民等 との協働推進	・地域住民や関係機関との 協働及び、住民、学校、公立施設等の協	年1回以上	○ 周辺施設と協働での事業を2回実施した。 (北海道立図書館との連携事業1回) (文京台地区教育3施設連携事業1回) ○ 近隣教育機関等との連携講座(博物館実習、体験学習・施設見学等)を計30回行った。

(2) 取組の実施状況

ア 調査研究事業

- ・ 重要遺跡確認調査は、興部町興部豊野竪穴群の調査を行った。令和4年度は興部町興部豊野竪穴群（B）の分布・個別竪穴の属性データを記録するため、測量調査を実施し、竪穴を26か所確認した。このうち、平面形が方形で周堤とみられる高まりを伴うか、床面が平坦なものが12か所あり、これらは擦文文化期の竪穴住居である可能性が高い。調査範囲北側に分布する3か所の竪穴や斜面や崖際にある不整形竪穴については、古代の可能性が低いと考えられる。
- ・ 埋蔵文化財に関する研究調査は、当センターで収蔵保管している千歳市美々4遺跡出土の漆塗櫛5点について、資料情報の充実かを図ること、および一般向け体験講座「縄文人に挑戦―漆塗櫛をつくる―」における製作工程復元に関する情報を得ることを目的として、構造調査を行った。
- ・ 市町村埋蔵文化財担当職員を対象とした埋蔵文化財担当職員研修会は、洞爺湖町において出前研修会「竪穴建物等復元の実際について」を実施した。また北海道立埋蔵文化財センターで埋蔵文化財担当職員研修会「埋蔵文化財発掘調査の現状と全国遺跡報告総覧および文化財デジタルデータの利活用について」を実施した。

イ 利用の促進

- ・ 所蔵資料等により、通年の常設展示並びに年4回の企画展を開催した。企画展の開催・終了に伴う5回の模様替えを含め、平均して月1回程度の模様替えを行った。
- ・ 年間利用者数は6,200人を目標としたが、7,447人の利用者があった。政府による緊急事態宣言、北海道知事による不要不急の往来・外出自粛要請、イベント開催時の定員減数措置など、年間を通し新型コロナウイルス感染症の影響を受けた結果となった。
- ・ 年間行事予定、施設案内、展示案内、講演会等の各事業、縄文工房体験コーナー紹介等のリーフレット・パンフレット・ポスター・チラシ類を作製した。
- ・ 野幌森林公園を散策しながらの利用を考え、かるちやる net 構成施設に広報資料を設置した。例年、春休み・夏休み期間にはかるちやる net 事業としてスタンプラリーを実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。
- ・ 体験コーナーの利用者が来館者数の大きな比率を占めていることから、例年、個人や家族などで気軽に楽しく利用できるよう体験コーナーの充実を図ってきたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により永らく閉鎖していたが、2月より再開してきた。
- ・ 図書閲覧は9月から一部再開した。
- ・ 一般向け、児童向け主要蔵書目録をホームページ上に公開した。
- ・ 団体見学利用申込書を定め、受付の簡略化を図った。
- ・ 体験講座等の内容をホームページ上に公開するなどして情報の提供を行い、団体見学のイメージづくり、時間配分などの参考となるようにした。
- ・ 各種広報誌や報道機関を積極的に活用するとともに、リーフレットやチラシの配布、ポスターの掲示などにより施設や講演会等事業の情報発信を行った。ただし、外出自粛要請やイベントの定員減数措置を行っている状況から、例年と比較して規模を縮小した。
- ・ 外国人利用者への対応として、日本語と英語・中国語・韓国語・ロシア語をそれぞれ併記した施設の概要案内4種のリーフレットを作製した。

ウ 普及・啓発事業

- ・ 一般道民を対象とした講演会等を年3回、考古学講座を年5回、児童生徒対象の体験型講座こども考古学教室を年5回（以上道民カレッジ連携）、児童生徒対象の市町村での体験型出前講座を年10回実施した。
- ・ 関連施設等から寄せられる展示会・講座等の開催情報（ポスター・リーフレットなど）を速やかに館内掲示するなどして、来館者に情報提供を行った。

2 目標達成に関する説明等

(1) 調査研究事業

- ・ 重要遺跡確認調査は、興部町興部豊野竪穴群についてほぼ計画通りの調査を行った。
- ・ 市町村担当職員を対象とした研修会については、出前研修会として洞爺湖町で1回を実施

し、北海道立埋蔵文化財センターで埋蔵文化財担当職員研修会を実施した。

(2) 利用の促進

- ・ 通年の常設展示並びに年4回の企画展を計画どおり開催した。
- ・ 年間利用者数は7,447人で、目標指数6,200に対し1,247人上回った。政府による緊急事態宣言の発出、北海道知事による不要不急の外出・往来自粛要請、イベント開催時の定員減数措置など、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け社会全体が外出自体を自粛するなか、その影響を受けた結果と考える。

(3) 普及・啓発事業

- ・ 講演会及び調査報告会は、新型コロナウイルス感染症に係る道教委からの通知や国・道の設定する警戒ステージに基づき、開催日程の変更や定員減数措置を行ったうえで、計画通りの回数を実施した。
- ・ 考古学講座は5回の計画のうち5回実施した。
- ・ こども考古学教室は目標指標の5回を達成した。
- ・ 市町村へへの出前講座は10回実施した。
- ・ このほか、近隣市町村等からの講座等の要望に対しては講師派遣として対応し、2回実施した。

3 目標達成度の評価結果

(1) 調査研究事業

- ・ 重要遺跡調査について、調査計画など北海道教育委員会と適宜協議しながら行い、計画どおりの事業を達成できたと考ええる。
- ・ 市町村職員を対象とした研修会、道立埋蔵文化財センターでの研修会については、計画どおり実施した。

(2) 普及・啓発事業

- ・ 各事業の回数については、管理の目標における事業指標は達成できており、全体的には計画に沿った事業を行うことができたものと考ええる。利用者数については緊急事態宣言に伴い、年間を通して行った講座・講演会等の定員の減数措置、北海道知事発出の札幌市との不要不急の往来自粛要請に伴う道民の外出自粛の影響を受けた結果となった。

来館者数には反映しないものの、出前講座や講師派遣の際の学校施設等での活用の働きかけや、館外での各種イベント参加など、多様な形で施設のPRと普及啓発を行っていくことが重要となる。

その他教育委員会が必要と認める事項

- 1 当該年度に甲が実施した満足度調査の結果及びこれに対する改善措置等の状況（改善措置、次年度業務計画への反映等）

(1) 調査結果

新型コロナウイルス感染症の影響による高齢者の入館者数の減少に伴い、満足度調査の回収数も昨年度の2分の1程度に減少している。そのため昨年度の結果との単純な比較は困難であるが、感染症対策下の状況として相対的に若年者層の比率が増加したものと捉えられる。

ア 利用者の性別

男性 55.9%、女性 44.1%であった。前年度比で女性の割合が 9.9 ポイント増加した。

イ 年齢

前年度比で、10代以下 16.8 ポイント、20代 1.5 ポイント、30代 6 ポイント、40代 3.6 ポイント、50代 2.5 ポイント増加した。対して 60代 26 ポイント、70代以上は 4.4 ポイント減少した。調査件数はほぼ半減しているが、昨年度に比較して大きな変動がみられる。

ウ 職業

昨年度に比べ、学生の比率が 21.7 ポイント、主婦は 8.5 ポイント、その他は 2.2 ポイント増加している。対して無職は 27.9 ポイント、自営業は 2.8 ポイント、会社員・公務員は 1.6 ポイント減少した。

エ 住所

昨年度は道内が 97.2%だったが、道外の利用者が 9.1%と 6.3 ポイント増加した。新型コロナウイルス感染症の影響により道外からの往来の自粛が少しずつ緩くなってきたことを反映したものと考えられる。

オ 施設を知った理由

昨年度に比べ、インターネットが 10.3 ポイント、知人・友人の紹介が 6.9 ポイント、その他が 6.4 ポイント、学校が 4 ポイント増加し、対して新聞・雑誌が 3 ポイント、ガイドブックが 0.9 ポイント減少した。若年層の比率の増加と、厚別区や江別市内の図書館、公民館に重点的にポスター・チラシ等を配置した効果とみられる。

カ 利用状況

初めてが 20.7 ポイント、月数回が 13.3 ポイント、数年に1度が 3.6 ポイント、週数回が 1.5 ポイント増加し、年数回が 39.1 ポイント減少した。体験メニューのお持ち帰りや毎月更新のスタンプブックの効果とみられる。

キ 利用目的

その他が 46 ポイント、展示品の観覧が 5.6 ポイント増加した。対して講座・講演会への参加が 51.6 ポイント減少した。

ク 満足度

総合的な満足度は「満足」および「ほぼ満足」が合わせて 100%で、昨年度の 94%から 6 ポイント増加した。「満足」の回答は 3.3 ポイントの減少である。

(2) 改善措置等の状況

ア 施設を知った理由について、インターネット、知人・友人の紹介、学校の割合が増加した。新型コロナウイルス感染症の影響による高齢層の減少、若年層の相対的な増加による影響と考えられる。

イ 「初めて」「月数回」の利用が増加したことから、若年層の利用頻度の増加が考えられる。

(3) 次年度業務計画への反映

ア 年度当初や事業ごとに、道内主要博物館・美術館等、近隣の小・中学校、高校、大学、近隣の公共施設・観光施設・商業施設などへパンフレット、行事予定、ポスター、チラシなど

を送付・配布しているが、今年度その効果が認められたため、引き続きパンフレット等を送付・配布し周知を図ることとする。

イ ホームページで情報収集する来館者も多いとみられることから、今後も内容を充実していく。

ウ 講演会・講座、特にこども考古学教室の参加が安定していることから、興味を持ってもらえる企画内容を引き続き検討していく。

エ 体験コーナーについては、昨年度の2月から再開しており、今後、順調な利用が期待できる。新型コロナウイルス感染症に係る道教委からの通知や国・道の設定する警戒ステージ等に基づき、柔軟に対応していきたい。

オ パンフレット・チラシの配布、財団の広報誌での紹介はこれまでと同様に行いながら、機会があれば、北海道生涯学習協会（かでの2・7）の情報交流広場でのパネル展や、民間の雑誌（じゃらんほか）への掲載など、広報方法や内容をさらに充実することとしたい。

2 乙が自ら実施した利用者満足度調査の把握のための取組の実績、苦情・意見等の内容及び対応の概要（改善措置、次年度業務計画への反映等）

(1) 満足度調査の結果

ア 来館者（展示、体験、施設見学）

- ・ 催し内容、展示品の満足度

「満足」・「やや満足」の割合が80.4%で、「やや不満」は2.2%、「不満」は0%である。

- ・ 施設の利用

「初めて」の方が最も多く51.1%、次いで「年に数回」が20.0%を占める。、「数年に1度は」17.8%、「月に数回」が11.1%である。

- ・ 情報源

「インターネット」が26.1%、「家族・知人の紹介」が21.7%、「学校」が10.9%でこの3つで過半数を占める。「広報誌」「パンフレット・チラシ」は各6.6%、「新聞・雑誌」は2.8%、「道民カレッジ連携講座一覧」が2.2%である。

- ・ 利用目的

「展示の閲覧」と「体験学習」が79.3%であった。「講座・講演会の参加」「図書閲覧」が各3.2%であった。今年度は体験コーナーを再開していたこと、アンケートが展示室の入り口に設置したことから、両者の利用目的の利用者比率が高い結果となったとみられる。

イ 講演会・講座（講演会1回・考古学講座3回の計4回の平均）

- ・ 年齢

全ての講座・講演会で「65～74」が54.3%、「45～64」が22.1%、「75以上」が18.8%以上を占め、特に60代が多数を占めている。

- ・ 居住地

「札幌」・「江別市内」が82～85%と主体である。「そのほか道内」も15～25%を占め、道内遠隔地からの来場が一定数みられる。

- ・ 講座等を知った方法

実施回によって差がみられるが、「パンフレット」が33.3～46.4%、「インターネット」が19.7～36.3%で、この両者が大半を占めた。パンフレット配付による広報の効果があったと思われる。「道民カレッジ連携講座一覧」は8.2～10.1%で一定数を占めている。「家族・知人の紹介」は4.9～6.6%、広報誌は5.8～13.1%、新聞・雑誌は2.9～8.2%である。

- ・ 内容満足度

各回とも「満足」・「やや満足」が主体を占め、92.1～94%で推移している。「やや不満」・「不満」は合わせても0～2.2%である。

- ・ 満足度の理由

「興味を持って聞けた」が各回とも75.5～80%であり、参加者の期待するテーマ選びと内容を実現できていると考えられる。ただし講座によっては「より専門的な内容を聞きたい」との声も10%程度みられ、現状の水準を求める層とのバランスを考えつつ、専門的情報を取り入れる工夫を模索していく必要がある。

(2) 改善措置等の状況

- ・ アンケートは、来館者が46名から、講演会・講座が4講座で計214名からいただいた。特に後者に関しては、回収率が87%と良好であった。
- ・ 展示への評価に加え、スタンプ手帳、シールラリー、持ち帰り体験キット等の企画が高い評価を得ている。体験に関する需要が高いため、体験メニューやスタンプ、シールラリーのリニューアルを継続的に進めていく必要がある。
- ・ 全体的に来館者及び講演会・講座参加者の「満足」「やや満足」の割合が90%以上を維持しており、展示内容や体験メニュー、講演会・講座の内容、さらには職員やスタッフの対応も含めて、一定の評価をいただいているものととらえられる。

(3) 次年度業務計画への反映

- ・ 人づてで周知が広がってきていることと、チラシの配布などの効果もあると思われることから引き続きPRの方法について継続していきたい。
- ・ インターネットを見て来館する方も多いため、ホームページの内容もさらに充実させていくこととする。
- ・ 新聞・雑誌等へできる限り掲載することとし、センターを知っていただくきっかけを増やして新規利用者増に繋げていきたい。
- ・ 事業内容の充実を図り、職員及びスタッフの来館者への対応に十分配慮しながら事業を行っていく。
- ・ こどもから大人まで、それぞれが楽しめるような事業や新しいしかけなど、利用者にとってさらに魅力ある施設となるための工夫を考えていく。

3 苦情・意見等

令和4年度においても講座をインターネット配信するよう要望があったが、著作権の問題で今後の検討課題とさせていただく。「施設自体は良いが広報が足りない。もっと存在をPRすべき」とのご意見を口頭でいただいた。